

タイトル：レタスビッグベイン病に対するアシベンゾラル S メチル剤とアゾキシストロビン剤の発病抑制効果

[要約]

土壤伝染性病害であるレタスビッグベイン病に対して、病害低抗性誘導化合物であるアシベンゾラル S メチル顆粒水和剤 1,000ppm 液の定植直前苗への散布、並びに殺菌剤であるアゾキシストロビンフロアブル剤 200ppm の定植後の㎡当たり 3 リットル灌注が高い発病抑制効果を示す。

香川県農業試験場・病害虫担当

[連絡先] 087-889-1121

[部会名] 生産環境 (病害虫)

[専門] 作物病害

[対象] 葉茎菜類

[分類] 研究

[背景・ねらい]

レタスビッグベイン病は土壤伝染性病害であり、登録薬剤として臭化メチルおよびクロールピクリンの土壤くん蒸剤があるものの、露地野菜であるレタスでは効果の安定性など、導入に対し支障が多く対処に苦慮している。そこで、処理が容易でかつ安定した発病抑制効果を示す薬剤の抽出を行う。

[成果の内容・特徴]

- レタスビッグベイン病に対して、定植直前のセルトレイ苗への、病害低抗性誘導化合物であるアシベンゾラル S メチル顆粒水和剤 1,000ppm 液の散布が高い発病抑制効果を示す (表1、2)。
- 定植直後の灌水として、アゾキシストロビンフロアブル剤 200ppm 液を㎡当たり 3 リットル灌注することで、高い発病抑制効果が得られる (表1)。

[成果の活用面・留意点]

- 両剤の上記処理法によるレタスの薬害については現在検討中である。
- 薬剤ともレタスに農薬登録がなく、現在のところは使用できない。

表1 人工気象室内のポリエチレンポット (120mm径) 試験におけるレタスビッグベイン病に対する散布剤および灌注剤の発病抑制効果

| 供試薬剤 | 処理量・処理法 | 定植83日後の反復別の発病程度* | | |
|-------------------|-------------------------|------------------|----|-----|
| | | I | II | III |
| アゾキシストロビン20%フロアブル | 200ppm, 3ℓ/㎡, 定植後土壌灌注 | - | - | - |
| アゾキシストロビン6%粒剤 | 0.5g/128穴セルトレイ株, 定植直前散布 | ++ | - | ++ |
| アシベンゾラルSメチル顆粒水和剤 | 1000ppm, 定植直前散布 | - | - | - |
| 対照 タリメト微粒剤 | 30kg/10a, 土壌混和, 灌水・被覆** | - | - | - |
| 無処理 | | ++ | ++ | + |

* 発病程度 ++: 明らかな症状を認める, +: わずかに症状を認める, -: 発病を認めない

** 薬剤を土壌混和した後に、ポットに入水、灌水状態とし、0.06mm厚のポリエチレンフィルムで10日間密封した。なお、人工気象室は5℃~25℃変温、40,000lux、7時間日長とし、湿度は80%過湿制御設定とした。

表2 人工気象室内のプランター（50×15cm）試験におけるレタスビッグベイン病に対するアシベンゾラルSメチル顆粒水和剤の定植直前散布処理の発病抑制効果

| | | 第1回(3/23)定植 | | | | | |
|----------------------|------------------|--------------------|----|-----|--------------------|----|-----|
| 供試薬剤 | 処理量・処理法 | 定植41日後 プランターNo. | | | 定植44日後 プランターNo. | | |
| | | I | II | III | I | II | III |
| アシベンゾラルSメチル 顆粒水和剤 | 1,000ppm, 定植直前散布 | - | - | - | - | - | - |
| 無処理 | | ++ | - | - | ++ | ++ | ++ |

| | | 第2回(7/3)定植 | | | | | |
|----------------------|------------------|--------------------|----|-----|--------------------|----|-----|
| 供試薬剤 | 処理量・処理法 | 定植40日後 プランターNo. | | | 定植55日後 プランターNo. | | |
| | | I | II | III | I | II | III |
| アシベンゾラルSメチル 顆粒水和剤 | 1,000ppm, 定植直前散布 | - | - | - | - | - | - |
| 無処理 | | ++ | - | - | ++ | ++ | ++ |

発病程度 ++：明らかな症状を認める，+：わずかに症状を認める，-：発病を認めない
 なお，人工気象室の設定条件は表1の試験と同様とした

[その他]

研究課題名：臭化メチル代替技術緊急確立事業

予算区分：国補

研究期間：平成10年度（平成10～14年）

研究担当者：森 充隆、十河和博、鐘江保忠

発表論文等：平成10年度日本植物病理学会関西部会で発表